

事業番号	09 03 04	事業改善シート（令和元年度実施事業分）	<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	農業改良普及事業	部局	農政部	課・室	農業技術課	
		実施期間	S23～	E-mail	nogi@pref.nagano.lg.jp	
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)						
8つの重点目標	労働生産性					
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進					
	3-7 先端技術の積極的な活用・導入					

## 1 事業の概要

事業の現状・目指す姿 (予算編成時)	<b>【現 状】</b>
	○農業者に直接接し、新品種・新技術の実証展示ほを活用した生産指導や経営改善指導等に関する普及活動を通じて、自主的に課題解決できる農業者を育成し、農業・農村の持続的な発展を図っている。 ○人・農地プランづくりや農業の6次産業化支援等、地域の新たな課題の解決に向けた普及活動を実施している。 ○食品企業等の実需者ニーズを的確に把握した契約取引を行う新たな産地づくりを推進するなど、時代の変化に対応した普及活動を展開し、農業者の所得向上を図っている。
	<b>【目指す姿】</b>
	○高度化する農業技術や環境と調和のとれた農業生産、多様化する流通・消費形態、高度情報化等に対応した農業経営者が地域で活躍するとともに、農業・農村を担う人材が確保・育成され地域農業の振興と活性化が図られている。 ○食品産業界が求める農産物を生産し契約取引を行う農業者が増加し、産地が育成され、農家所得の向上が図られている。
	<b>【実施内容】</b>
	○県下10所の農業改良普及センターに普及指導員を配置して地域課題を解決するため、普及活動を展開。 ○担い手の育成・確保や農業関係試験場が開発した新技術・新品種の普及、農業者の経営改善など、協同農業普及事業の実施に関する指針に基づいた普及活動を展開。 ○契約取引を志向する農業者等を対象とした農産物取引等に関する基礎知識習得研修会等を開催。

指標及びその達成状況 [↗:改善、↘:悪化、→:変化なし]						No	成果指標	H29年度	H30年度	R1年度	目標値	達成状況	事業 コスト	区分(単位:千円)		H30年度	R1年度	
		前年度繰越		0	0													
														予算額	現計予算		64,410	71,927
															合計(A)		64,410	71,927
															うち一般財源		36,401	38,462
														決算額(B)			52,003	56,125
															職員数(人)		188	186

成果指標設定理由	①第3期食農計画の目標達成に向けて、普及センターが重点的に取り組む指標の平均進捗率を指標として設定。 ②～④ ①のうち、普及活動での重要度が高い新規就農者数の確保（第3期食農計画の達成指標数値）、1等米比率全国トップクラスの維持、果樹試験場開発のオリジナル品種（シナノリップ、クイーンルージュ）の面積拡大を指標として設定。 ⑤契約取引を行う新たな産地づくりを進めるため、新規契約取引成約件数を指標として設定。
----------	--

達成状況の分析	①目標指標である夏秋イチゴ生産量、国際水準GAP認証の取得件数の実績増などにより、平均進捗率は目標を上回った。 ②他産業における雇用情勢の回復等の影響により、目標を下回った。 ③収穫期の天候不順や台風等により適期収穫ができず目標を達成できなかった。 ④品種検討会の開催等により栽培面積は前年比120%増加したが、目標は達成できなかった。 ⑤生産者に対する普及センターの相談活動や商談会への積極的な参加促進により、目標は達成した。
---------	--

主な取組	○新たな経営改善手法の導入 ・2戸の農業者をモデル農家として選定し、トヨタ式カイゼン手法を用いた経営改善の支援を実施 ○新規就農者等の経営発展に向けた研修 ・農業改良普及センターにおいて、各種講座(新規就農者フォローアップ、青年農業者育成)を開催し、経営発展や技術習得を支援 ○技術指導による1等米比率全国1位の達成のための活動 ・品質低下を招く斑点米の発生を防止するため、カメムシ対策等の技術指導を実施 ・施肥改善による品質向上 ○新技術・新品種等を核とした果樹経営体の「稼ぐ・攻める」力の強化 ・リンゴ「シナノリップ」、ブドウ「クイーンルージュ」などの県オリジナル品種の作付拡大による収益性の向上 ○スマート農業の推進 ・スマート農業機器のお試し導入による農業者への先端技術の導入を推進(水田センサー90台) ・農業改良普及センターにタブレット端末(26台)を配備し、先端技術に対応した指導を実施
------	---

## 2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのよう にしていきたいか	課題等	今後の方向性
	高度化する生産技術、多様化・複雑化する流通・消費形態等に対応できる農業者の育成及び生産振興と農村振興が一体となった政策の推進が必要とされている。	開発された技術や先端技術の生産現場への早期普及・定着や市町村・JA等関係機関と連携した担い手の確保・育成、農業・農村の活性化を推し進める。

事業名	農業改良普及事業	部局	農政部	課・室	農業技術課
-----	----------	----	-----	-----	-------

細事業 No.	細事業名	H30年度 決算	R1年度 決算
1	農業改良普及運営費	41,185 千円	38,011 千円

No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和元年度 実施内容(実績)
1	農業改良普及運営費	直接	県下10所の農業改良普及センターに普及指導員を配置して地域における課題を解決するため、普及活動を展開した。

細事業 No.	細事業名	H30年度 決算	R1年度 決算
2	農業改良普及事業費	10,232 千円	17,399 千円

No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和元年度 実施内容(実績)
1	農業改良普及事業費	直接	担い手の育成・確保や農業関係試験場が開発した新技術・新品種の普及、農業者の経営改善など、協同農業普及事業の実施に関する指針に基づいた普及活動（研修会859回、講習会1,793回）を展開した。また、農業機械メーカーの協力等によりスマート農業技術の導入支援や農業者や指導者を対象とした研修会（4回）の開催及びJA等の関係機関と連携した指導体制の整備を図り、本県農業のスマート化を加速させた。

細事業 No.	細事業名	H30年度 決算	R1年度 決算
3	中山間地域農産物橋渡し支援事業	586 千円	715 千円

No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和元年度 実施内容(実績)
1	中山間地域農産物橋渡し支援事業	直接	契約取引を志向する農業者等を対象とした農産物取引等に関する基礎知識習得研修会等を2回、伝統野菜、新品目・新品種等の栽培技術指導及び展示ほを4カ所、食品産業事業者と農業者の商談会を4回開催。